

2016年 生体運動研究合同班会議 報告記

監修 森 博幸 (京大・ウイルス研)



2016年1月8日(金)午後～10日(日)、京都リサーチパークにおいて表題の会が開催されました。新学術領域「運動マシナリー」の計画班・公募班のメンバーも例年通り多数参加し、今や研究会の雰囲気左右するような一大勢力になっています。お世話いただいた京都大学の渡邊先生と原田先生の御人徳によるものと思いますが、今年も総参加数212名(一般:140名、学生:62名、シニア:10名)、演題数102題の大盛会となりました。7分発表・3分議論の厳しい時間制約の中、生体運動に関わる(一部関わらない話もありますが)様々な話題が、朝から晩まで次から次へと怒涛のように紹介されました。本領域の西山さんも、講演者・質問者・カメラマンと八面六臂の大活躍でした。お世話いただいた両研究室の皆様がこの場を借りて篤く御礼申し上げます。

西山さん経由で来年の本研究班会議の開催予定を頂戴しましたので以下に紹介します。

- ・会期：平成 29年 1月 6日(金)～29年 1月 8日(日) (3日間)
- ・会場：神戸国際会議場 国際会議室@ポートアイランド
- ・世話人：兵庫県立大大学院 峰雪 芳宣先生、情報通信研究機構未来ICT研究所 小嶋寛明先生
- ・メッセージ：「2年連続で関西での開催となりますが、皆さん奮ってご参加ください」

会議2日目の夜には、これまた恒例の「運動マシナリー」新年会が京大ウイルス研の石井さんのお世話で開催されました。(場所は京都タワー近くの「酔心」)飛び入り参加の方も含めて35名程の方が集まり、老若男女の垣根を超えて熱い議論を交わしました。飲み物も食べ物も一杯で幸せな時間となりました。石井さんありがとうございました。

例年通り、今年も参加された皆さんの感想文の形で報告記をまとめたと思います。54名の方々のご意見を頂戴しました。(ご協力いただきました皆様、ありがとうございます。)昨年同様、宮田代表と神谷先生の作文を除き、「見せしめ」として到着順に並べています。短い感想文でもたくさん集まると会の雰囲気が大変よく伝わります。お楽しみください。

宮田真人 領域代表 (大阪市大)

生体運動合同会議

以下は2000年ころにどなたかが書かれた会議の趣旨(?)です。私が2011年に大阪市立大学でお世話をさせていただいた際にも案内文として使いました。

—

「生体運動研究合同班会議」は学問分野横断的、学会横断的、年齢層縦断的に、1955年ごろから続いている伝統の会議です。日本中の生体運動研究者が年のはじめに集い、1会場で3日間にわたって研究交流を行います。形式にとらわれず、実を尊ぶ空気に包まれた会

合です。特に、若い研究者（とその卵）たちには、発表と質疑応答への積極的な参加を、そして研究室主宰者の方々には必要に応じて小レビューの発表を期待致します。また、ご退職の方々も年に一度の会議に参加され、後進へのご助言をいただければ幸いです。

1970-80年代には京大教授でコネクチン（タイチン）の発見者である、丸山工作博士が生物関係の書物を多数出版されてきました。その中でも岩波新書の「筋肉のなぞ」は、生体運動の当時の研究動向とその直近の歴史が熱く述べられており、学部生の私にとってそこに記載された「研究班」は憧れの対象でした。丸山先生はのちに、千葉大学長、大学入試センター長などを歴任されました。

この「筋収縮機序の化学的研究班」は、まさに、はげしい討論の連続であった。

「何をしようとしているのか」、「それはどんな意義を持っているのか」の二つが問われた。しばしば指摘されたのは、「だれその追試にすぎないのではないか」ということであった。

「わが国では初めての成果である」という答は、失笑を招くだけであった。こうして、「本邦初演」の言葉は禁句となった。（丸山工作著、『筋肉のなぞ』（岩波書店、1980年）より）

2005年ころまでは、生体運動合同会議は「利権の絡むアダルトな会議」だったかもしれません。地味な研究しかできていない若手研究者の私は、この会で存在をアピールすることのみが、将来に生体運動コミュニティで生き残るための道であると信じていました。昼休みには文科省科研費の特定領域や重点領域のクローズな会が催され、参加できない私は「はげしい討論が連続するアダルト利権の会議」に想像を巡らせるしかありませんでした。

2005年ころを過ぎると、生体運動はより多様な観点から研究されるようになり、世の中の「アダルト利権会議」は生体運動合同会議だけではありませんでした。それと共に、本会の従来の趣旨は急速に不明瞭になり、エキスパート研究者た

ちの記憶の彼方だけに存在するものになりました。

私は、もし自分が何かの間違いで「研究費の代表」みたいなものになれたら、「生体運動合同会議」にもう一度「箔」をつけてみようと、かねてから考えていました。自分はここで育てていただきましたし、遠い分野で行われている生体運動の研究者が集まって会合を持つことは意義があると思うからです。偉大な先人たちを真似してはいますが、私の迫力不足から、時代の流れには逆らえていないかもしれません。

会場の片づけをしながら、京大の原田慶恵教授が言われたことが私の記憶に残りました。「この会は本当はお金をもらうための会だったのにね。みんな、忘れちゃったよね。」

神谷 律（学習院大）

この会は多様な話題が次から次へ出てくるワンダーランドのようです。演題の並びに飛躍があるプログラムや、扱われる生物と実験方法のとんでもないバラエティに、ふだん眠っている頭が揺さぶられました。先端技術を使った研究にはついにここまで来たかと感心するばかりでしたし、珍しい生物によるユニークな研究には素直に楽しませてもらいました。いつものことながら、会のあとしばらく自分の研究にももっと違う方法が使えないかと考えたりしました。多くの方々と同じ意見ですが、このような会はずっと続けて欲しいです。

（ここまでで終わりにしようとしていたら、宮田さんの感想文が届き、何か意見を述べて良いとおっしゃっています。一つだけ言うと、私はこの会が「利権のからむアダルトな会議」であることも「本当はお金をもらうための会だった」ことも気がつきませんでした。ずっとこの会はお金をもらうための会というよりは、たまたま大規模な予算をもらった人がボランティア的に世話をする、どちらかというインフォーマルな会だと思っていたんです。原因と結果が逆という気がするのですが、そう言われてみると、宮田さんの見方の方が現実的に即していたのかもしれませんが。見方の違いには世代と（2005年頃の）立場の違いが関係していそうです。）

久堀智子（阪大）

「生体運動合同班会議」に初めて参加させていただきました。生物物理学的な研究分野から長い間遠ざかっていたため、個人的には懐かしく感じる研究テーマを数多く聞かせていただくことが出来ました。また懐かしい方々との多くの再会があり、その後の研究のご発展に触れ大きな励みをいただきました。生体運動とひとことと言っても様々な研究対象や研究手法があることを実感いたしました。このような機会を通じて、さらに勉強をさせていただくことを楽しみにしています。

木下 専（名古屋大学・進藤班）

かつて馬淵班でお世話になり、宮田さん・西坂さんとはさきがけの同期で、神谷先生とともに(Cell Motility & Cytoskeleton誌の編集に携わっている者ですが、今回初めて連携研究者として参加する機会を得ました。多彩な研究対象を独自の手法で研究する専門家集団が「運動」という共通テーマの下に一堂に会し、シニアから学生までフラットに情報交換できる伝統的なフォーラムであることに感銘を受けました。主催の労をとって下さった皆様のご尽力に感謝しております。次回からは学生も参加・発表しますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

中根大介（学習院大）

今年は4年ぶりに発表をさせていただきました。考えてみると、修士1年のときに初めて発表してから、10年くらい経ちます。年末年始は実験を 楽しんで、そのままこの会に参加していたことをよく覚えています。その頃には、原核生物の発表が少なかったのですが、今は真核・原核、どちらの運動の研究も聞くことができ、とても幸せです。さまざまな分野の生体運動の発表を聞くと、年始早々、良いことが思いつきそうな気になります。

塩見大輔（立教大）

今年も新春から、100題もの口頭発表を3日間で聞くという生体運動合同班会議に出席しまし

た。10分間で次々と演題が変わるので理解が追いつかずに大変なこともありましたが、毎回のことですが、多くの刺激を受けました。また、自分たちの実験系に取り込みたいと思うような発表もあり、私にとって非常に充実した会でした。来年も発表できるように今年も研究を進めていきたいと思いました。

渡邊力也（東大）

今回で3度目の生体運動合同班会議への参加になりました。今年も、会議での生体運動に関する議論は興味深く、私自身の研究へのフィードバックは大きかったと思います。来年も参加させていただきたいと思います。

須河光弘（東大）

運動マシナリー共催の効果で発表内容が多彩になり勉強させてもらいました。自身の発表に関して前年に引き続き経過報告に終わりこれという結論を示せず、質疑応答も下手な答えしかできずに反省しています。Q-Bioと時期が被ることをすこし懸念しています。

丸山洋平（東大・須川班 DI）

「動くもの」についての会だったので、発表もタンパク質から単細胞生物まで非常に多様で、色々な話を一度に聞けるいい機会でした。ただ、自分が背景知識を持たない発表も当然多く、朝から晩まで話を聞き続けるのは中々にハードでした。

岩楯好昭（山口大）

生体運動合同班会議は1つの会場で細胞、分子の運動の研究の話を一気に聞ける会でした。生体運動という観点で共通したさまざまな分野の話をもとめて聞くことができ、知識として大変勉強になるとともに、自分の研究にも新しい着想をわかせることができそうです。

若林憲一（東工大）

学部4年生のとき、神谷津先生の下で主催者側として係をしながらか初参加してからちょうど20年が経ちました。今回初めて自分の学生が発表

し、会議の歴史の継承に少し貢献できたようで感慨深かったです。例年通り、優れた多様な研究の連続に圧倒され、年始から身が引き締まりました。中でも、西山さんの深海微生物、中根さんのシアノバクテリア線毛、五島さんの植物"ダイニン"、渡邊さんのF1-εの役割、古田さんの新しいモーターのご研究などは、ご発表のスタイルまで含めて感動しながら拝聴しました。円滑な運営をして下さった京都大学の皆様に御礼申し上げます。

植木紀子(東工大・若林班・PD)

13年前にこの会で初めて発表しました。その後、生体運動の分野から少し離れてまた戻ってまいりました。今回が二度目の発表となりました。非常に緊張しながらでしたが、多くの先生方に自分の研究を知ってもらえたのが嬉しいです。どれも濃い内容の発表が10分毎に次々と繰り広げられ、圧倒されました。全く違う視点に気づかされたことも多かったです。大変充実した3日間となりました。

井手隆広(東工大・若林班・PD)

今年で7回目の参加となりました。毎回いろいろな対象について、さまざまなアプローチの研究を聞けるので濃密な時間を過ごすことができました。春から所属と分野が変わりますが、何かしら「動く」ものを見つけて参加していきたいと思います。

西牧優太(東工大・若林班・M2)

今回初めて口頭発表いたしました。班会議に参加したのはこれで3回目ですが、演者としてこれほどの人数を前に発表したのは非常に良い経験だったと思います。発表後も休憩中様々な意見や質問をいただき、今後の研究の良い材料になりました。ほかの方の発表では、面白い視点から研究を進めている方が多く、「もっと見たい!」と思った動画も多数あり、他分野に関する関心が非常に高まりました。例年以上に自分が大きく成長した3日間だと思います。

山本まみ(東洋大・伊藤班)

本会議に参加するのは2回目ですが、密度の濃い発表と質疑応答が大変勉強になりました。分野の異なる研究の話題も刺激的で、興味深く拝聴しました。朝から晩まで演題が多数あり、ちょっと疲れましたが濃密な3日間でした。

田代陽介(静大)

今回初めて参加させて頂きました。生物物理が専門でない自分にとってどの発表も新鮮で、様々な実験方法やアプローチは参考になりました。また、この会は自分の研究を7分でまとめる良い機会だと感じます。10分間発表の連続には、「生体運動」の名の通り体育会系を感じさせられました。皆様のパワフルさに感心し、新年早々自分も今年頑張らなきゃ!と気合いの入る班会議でした。来年も是非参加させて頂きたいです。

森本雄祐(理研)

今回が初めての参加でしたが、3日間で100演題以上を1つの会場で行うという非常にアクティブな会に感銘を受けました。これをほぼ時間通りに進めていくというのには驚きでした。私自身は今回、発表時間を少しオーバーしてしまったので、次回は時間どおりにおさまるようにならばと思います。

研究対象の生物種も幅広く、目新しく興味深い話が多いため、あっという間の3日間でした。懇親会を含めると朝から晩までいろいろな研究の話の聞いたり議論をしたりすることができ、自分の研究を見つめなおす良い機会にもなりました。

錦見 昭彦(北里大学)

今回、初めて「生体運動班会議」に参加させて頂きました。これまで、免疫学の分野で細胞の動きについて研究してまいりましたが、こちらの分野では主に細胞レベルや個体レベルで細胞の運動を捉える仕事が多くを占めています。これに対し、今回の班会議では分子レベルでの運動機構の解析や可視化の演題が多く、普段とは異なった視点から生体の運動を考えるきっかけとなりました。また、これまでずっとほ

乳類のみを扱ってきた者にとって、様々な生物の運動メカニズムに触れることができたことは、本当に新鮮で、多くのことを学べたように思います。

八木俊樹（県立広島大学）

この会に参加すると、この1年間、生体運動の分野でどのような研究が行われていたかがよくわかります。最近、これまで参加されたことがない分野の先生方の発表も増え、昔に比べて守備範囲がずいぶん広がったように思います。同じ分野でも違った切り口からの研究には新鮮な驚きがあり、大変勉強になっています。

森 博幸（京大・ウイルス研）

今年で4回目の参加です。宮田新領域が発足してから皆勤になります。毎年書いていますが、繰り返し学習による刷り込み効果は抜群で、常連の皆さんの顔も随分と解るようになりました。同時に内容の理解も進んでいる気がします。座る位置が徐々に前の方に移って来たことがそれを如実に表しています。宮田さんのイリーガルなレーザーポインターが非常に強力になってしまいました。

今回は20年以上お会いしていなかった昔の同僚の方とも久しぶりにお会いしてお話する機会も持てて大変幸せでした。宮田さんの師匠の井上先生や荒田先生と楽しいお酒をご一緒させていただけたことも大変光栄でした。デビュー戦を終えた院生さんの晴れ晴れとした顔を見ながら飲んだ日本酒も美味しかったですね。（塩見さん、おつきあいいただきありがとうございます。）

石井英治（京大・森班・博士研究員）

昨年に引き続き二回目の参加でした。新年早々京都で開催ということで、移動もなく正月ボケも手伝って緩く構えていましたが、参加者の方々の素晴らしい研究や活発な討論を前にあつという間にシャバの世界へ引っ張り出されてしまいました。また、幹事をさせていただいた2日目の情報交換会では、新年早々にも関わらず34人もの方々に参加していただき、企画した

甲斐があったと思っております。この場をお借りして御礼を申し上げます。

何あゆみ（京大・森班 M1）

今回初めて合同班会議に参加させていただきました。様々な分野からの研究発表で、驚きいっぱいの充実した3日間を過ごすことができました。また、私にとって初めての学会発表だったのですが、多くの方に自分の研究について聞いていただけたことは大変貴重な経験となりました。ありがとうございました。

寺原直矢（阪大・南野班・特任研究員）

本会議への参加は今回で2回目です。初めて参加したのは3年前でしたが、変わらず熱い会議でむしろどんどん熱くなっている感じがしました。発表時間は短いにも関わらず、どの演者の方も分かりやすく説明されていたので内容の理解に苦しまず、大変勉強になりました。真核・原核はもちろん、分子からシステムまでこのような幅広い分野に触れられることが本会議の素晴らしいところだと改めて実感しました。

酒井智史（阪大・南野班・DI）

今回初めて参加し、口頭発表をさせていただきました。短い発表時間でしたが、その中で自身の伝えたいことをまとめることが出来良い経験となりました。また、他分野の生体運動に関する研究を聴き、生物が機能を発揮するための力学的な仕組みの巧みさその多様性に感心させられました。

田岡東（金沢大学・福森班・助教）

今回の班会議も、研究分野と研究対象の生物種や分子が幅広く、3日間興味深く過ごさせて頂きました。研究に使われている手法も多様で、自分の実験にも取り入れたい！と思う方法をたくさん知ることができ、これら試してみようと思うワクワクしています。今回初めての試みという機器展示も、休み時間などに盛況で、準備される方は大変と思いますが今後も続くとよいと思いました。特に機器展示の紹介に口頭発表の機会があるのは斬新で目から鱗でした。

玉腰雅忠 (東京薬科大学)

年初のこの時期に何で班会議?と少し戸惑いながら、今回初めて参加しました。短い発表時間でありながら、ハイレベルな発表と鋭い質問の連続に圧倒され、こうしちゃおれない、早く戻って実験しなきゃ、と思わせる刺激的な発表もあって、まだ残っていた正月気分もすっかり吹き飛びました。情報交換会では井上明男先生の前で貴重なお話を伺い、また大阪市大の学生さんのみなぎるやる気にも感化され、パワーをもらいました。

森河良太 (東京薬科大学・玉腰班)

今回、初めて参加させて頂きました。私は理論専門なので実験は行っておりませんが、細胞レベルにおける様々な生命の動態に関する最先端の実験を拝見させて頂き、新しいアイデアがモリモリ湧いてきました。有難うございました。

片山栄作 (大阪市大・宮田班・特任教授)

本年の合同班会議では開始以来ずっと会議の中心課題であったアクトミオシン、そしてダイニン・キネシン・微小管の話はすっかり影を潜めてしまった。また細胞生物学の話題が圧倒的に多く、一方で生物物理学を中心とした発表は少なかった。昔からの流れを続けて見てきた者にとっては、時代の変遷とはいえ、少々寂しく感じた。歴史的な理由から、以前にはこちらの会では出なかったバクテリアの話題が加わったのは好ましいことであろう。

浜口 祐 (大阪市大・宮田班・特任助教 E-mail: tasuku@sci.osaka-cu.ac.jp)

今年も新年は生体運動合同班会議から始まりました。私自身、本班会議に参加するのは3回目であり、また Motility に関わる分野に移ってきてから3年になりました。私にとっては生体運動合同班会議は Motility を学ぶ上で様々な知識を植え付けてもらえる合宿のような気持ちにさせてもらえます。3日間で多くの演題と活発な議論に囲まれ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。さらに、1日目夜にはビンゴという試みもあり、それをきっかけに新たな

交友関係も生まれたように思います。気が早いですが、是非とも来年度も生体運動合同班会議に参加できるよう、今年一年頑張ろうという気持ちにさせてもらいました。

Isil TULUM (大阪市大・宮田班・博士研究員)

I am happy to have the chance to attend Seitaiundo meeting, again this year. I had the opportunity to meet and discuss with a lot of people from the field and had the chance to hear several interesting and promising talks. Unfortunately, the talks and the slides were both in Japanese. Since I am a foreigner and not have the ability to read all Japanese characters, I hoped that at least the slides could be prepared by English which might be more friendly for foreign scientists who study on the field in Japan and interested in attending this meeting. The talk and question times were very appropriate to keep the concentration on each presentation. But, the sessions were little long to keep track. This time, I was just a attendee, but I had chance to interact with important researchers and get some advices from them. I enjoyed the reception dinner and met our professor and student friends from different labs and universities. The bingo game was kind an ice breaker and was a nice idea.

Clothilde BERTIN (大阪市大・宮田班・博士研究員)

The meeting was very friendly, this is a good occasion to meet many researchers, collaborators, friends and hear to many different stories which can give us nice ideas for our experiments. Maybe the talks were too much condensed (one session contains too much talks and each talk was very short so when you are not familiar with the subject it might be hard to catch the story) For me it was very difficult to follow all stories because totally Japanese including the majority of the slides but not so much other foreigners so I guess I should learn more Japanese to be familiar with scientific discussions

田原悠平（大阪市大・宮田班・研究員）

初めて参加した時は話の内容を理解するので精いっぱいでしたが、今回で3年連続参加させていただき、以前の内容からの進捗や新たな発見が理解でき、興味深い会議でした。100を超える演題で、一日が終わるとクタクタになっていましたが、終わってみると走馬灯のように(笑)多くの研究が頭の中を駆け巡っていました。二日目の領域ランチミーティングでは急速凍結レプリカ法の紹介をさせていただきました。プロジェクト最後の年なので、何か技術支援ができればと思います。

豊永拓真（大阪市大・宮田班・M1）

聴きごたえのある濃密な三日間でした。今回が初めての参加であり、生体運動がどのような会かあまり想像できませんでしたが、幅広い年齢層の方々が活発に議論を繰り広げられているという印象を受けました。また、生体運動といっても、その中で多くの分野があり、時には自分の分野から少し遠いようなものもありましたが、どれも素晴らしかったです。今回は聴くだけの参加でしたが、次回こそは自分の研究を発表し、生体運動の発展に貢献できたらと思っています。

松生大輝（大阪市大・宮田班・M1）

今回初めての参加でしたが、それぞれの発表は10分という短い時間ながらも素晴らしい研究が濃縮されていました。他分野の方々の発表でも興味深いものが多くあり、とても充実した時間を過ごせました。

松本 優（大阪市大・宮田班・M1）

生体運動合同班会議では、運動をそれぞれの演者が様々な切り口で研究、発表しており、とても興味深かったです。また、ランチョンセミナーとしての運動マシナリー会議では、これまでの進捗と最後の一年間へ向けての目標が総括的にまとめられておりとてもわかりやすく、さらによりよい研究活動を促進する場になっていると感じました。学生としても、身の引き締まる思いをいたしました。私にとって初めての運

動合同班会議でしたが、とても勉強になりました。

水谷雅希（大阪市大・宮田班・M1）

昨年に引き続き、この会に参加させていただきました。2回目でしたので内容もより理解することができ、昨年よりもさらに充実した3日間を過ごすことが出来ました。また、たくさんの興味深いお話に自身の研究意欲もかき立てられ、来年は自分もあの壇上に立てるよう努力しようという気持ちになりました。

荒田敏昭（阪大・班友）

40年くらい前から参加しています。この1-2年で何か空気が変わった感じがしました。今年はさらに変わって、筋収縮の制御の研究がなくなり、私たちの発表だけになりました。私たちは、筋肉の巨大マシナリー「細いフィラメント」中のトロポミオシンの動態、特にNC接合部の開閉動態の重要性を報告しました。原子から細胞・個体へ、統一性から多様性へ、単純から複雑へ。私は、生の実験から、個体の中の原子のように、まだまだ原子にこだわって行きたいと考えています。

尾上靖宏（名大・本間班）

今年のハイライトは、#89の古田先生の発表。ダイニンをアクチン繊維の上で動けるように分子設計したものです。融合タンパク質を工夫すると、動く方向も制御可能とのこと。分子設計ができると、基本原理が理解できた気になります。おもしろかったです。

上田太郎（産総研）

運動班会議には、約30年前の大学院生の頃、小浜先生に誘われて以来だいたい参加しており、いつの間にか古株の方になってしまいました。振り返ってみると、内容的に低迷していた時期もあったように思いますが、今年も含めて最近はとても面白い発表が多く、有意義な時間を過ごすことができました。参加し始めた頃は、な

ぜ「班会議」という名称なのかも知らず、また研究費獲得が目的の一つであったことなど先日の原田さんのコメントがあるまで全く知りませんでした。良い方向に成熟しているのではないかと感じました。

中村修一（東北大）

今年で3回目の参加です。それぞれの生き物や分子モーターなどで何が分かっていて、まだ何が分かっていないのかといったことが、一部ではありますが、少しずつ理解できてきたように思います（話に慣れてきただけかもしれませんが・・・）。粘菌が仮足を伸ばす仕組みや、 F_1 -ATPase の反応スキームなど、もうかなり解き明かされているのだろうと勝手に思い込んでいましたが、まだまだやることは尽きないですね。人工細胞の話も興味深かったです。人工細胞の使い道はいろいろあるのだと思いますが、複雑な生き物から必要な素材だけを抽出した人工細胞で何かのメカニズムが分かる、というようなことがあれば、うれしいことです。私は理論家ではないですが、数理モデルなどを使って生命現象を解き明かそうとしている人は、複雑な事柄を粗視化するのがうまいのだらうと思います。人工細胞を使うと、理論研究と似たようなことが細胞レベルでできるのかなと思いました。

個人的には、スピロヘータの話が皆さんにとって未だに分かりにくいだろうなと反省しています。ややこしい生き物ではありますが、もう少し話がうまくなれないものかと。来年度で領域は終了ですので、今回は何とかがんばりたいと思います。

井川敬介（京大・iCeMS・杉村班・博士研究員）

生体運動合同班会議には初めて参加させて頂きました。これまで異なる分野で研究してきた私にとって、生体運動の研究に携わる研究者の方々の最先端の研究内容を聞いたことは、大変興味深く、とてもよい勉強になりました。また、10分間という短い時間ではありましたが、学位取得後初めて取り組んでいる研究内容を発表さ

せて頂く機会を頂き、色々な意見を頂けたのは、研究を発展させるための良い経験となりました。今後も参加させて頂ければと思っています。

池上浩司（浜松医科大学）

昨年度に引き続き2年連続の参加となった。生き物の動きを扱う研究者が一同に会し、学会であってもおかしくないサイズではあるが、会議発足以来守ってきた参加者全員が1会場で発表を聴講するスタイルのおかげで、普段自分では勉強しない分野（しかも、かなりユニークなものばかり！）に触れることができ、有意義であった。生物種を越えた様々な生体運動に触れ、自身が研究対象としている運動を更に広い視野で見つめる必要性に気付かされた。また、異なる分野をバックグラウンドとする聴衆の前で自身の新しい研究成果を発表したことで、懇親会などで自分とは異なる視点・観点による意見を頂戴することができ、未完成ながらも研究成果を発表した甲斐があったと感じた。

西山 雅祥（京大）

今年は世話人の一人として班会議の運営をさせて頂きました。遠方からたくさんの方にご参加いただき、また、活発な議論をしていただきまして誠にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。来年は情報通信研究機構の小嶋寛明 室長が神戸で開催してくださります。師匠！（20年来こう呼びしています）宜しくお願いします！

稲葉一男（筑波大学）

生体運動班会議には大学院生時代からからほぼ毎年参加しており、30年ほどになります。1会場で発表を行い、運動をキーワードに他の分野の発表が聞け討論できる形式は、たいへん素晴らしい伝統だと思います。参加しはじめた当時は、鞭毛繊毛をやっていた私にとって、とりわけ筋肉分野の皆さんの話を一気に聞けるのがたいへんためになりました。江橋先生や神谷先生をはじめ、この分野の先駆けとなった方々にお目にかかれたのもこの会議です。最近（細菌）のトピックスも新鮮です。生体運動以

外のさまざまな研究分野の方々とおつきあひもありますが、なぜかこの会議のコミュニティはもっとも心が落ち着きます。

今村圭吾（長崎大・中山班）

今回初めて、生体運動合同班会議に参加させていただきました。様々な分野の方の発表を聞くことができ、大変勉強になりました。また、自身の研究のアドバイスも貰うことができ、非常に刺激的な3日間でした。

近藤好夫（長崎大・中山班）

普段は微生物の研究をしており、そのほか分野についてはあまり研究発表をみる機会はありませんでした。発表内容や活発な討議はとても刺激的でした。今後の研究にも役立つことができ、大変有意義な会でした。

佐藤啓子（長崎大・中山班）

一度に多くの演題を聴くことができ楽しい会議でした。今回で3回目の参加になり、自分の中での名物先生の発表を聴くのが楽しみにもなっていました。

手塚晃太（早大・高野研・院生）

生体運動合同班会議に初めて参加させて頂き、口頭発表を行いました。発表の際には緊張のあまり言葉が出ず、壇上で無言になってしまうなど、自身の未熟さを痛感いたしました。しかしながら、大御所の先生方の前で発表をして、議論ができるという非常に貴重な経験ができた事を嬉しく思います。また、分野内容を問わず、常に活発な議論が交わされていた事に非常に刺激を受けました。今後は視野を広げる事、議論をためらわない事を意識したいと思います。生体運動合同班会議では、三日間とは到底信じられないほど濃密で有意義な時間を得る事が出来ました。

林 郁子（横浜市立大学）

3回目の運動班会議参加でした。様々な生物種について、異なる解析手法での生体や分子の動態解析の課題をいろいろ聞くことができました。

た。試験管内での再構成系を目指している私たちにとって、多くの発表が本当に参考になりました。経験ある研究者ばかりでなく学生さんも発表されるなど刺激もあり、今後に生かしていきたいと思います。

加藤健太郎（帯広畜産大学）

今年度から当研究領域の公募班で活動しています。「生体運動合同班会議」には今回初めて参加しました。あいにく他の研究領域の班会議と重なり、1日目だけの参加、発表となりました。普段寄生虫学の分野で研究・発表を行っている身ではありますが、今回のように様々な生物種で「運動」という共通項で研究を行っている研究者集団の発表には普段以上に引き込まれる内容も多かったです。やはり、細胞という面ではどの生物種でもそれらの基本原理は同じで、かつそれらの解析方法も似通っているわけで、今後の研究に対するヒントも得られました。

曾和義幸（法政大学）

生体運動研究合同班会議に3日間参加したのは約10年ぶりでした(昨年は残念ながら短時間しか参加できませんでした)。以前はアクトミオシンを中心とした内容が多かったと記憶していますので、発表される生体運動の種類がとて多くなった印象を受けました。また、研究手法のバラエティも広く、3日間次から次へと変わる話題を休む間もなく楽しみました。

笠井大司（法政大学、ポスドク）

十分間という短い時間でなく、もっと長い時間きいて、深いところまで知りたくなるような発表ばかりでした。また他の機会にぜひ、発表を聞きに行こうと思いました。幅広い分野の研究を一度に学ぶことができ、生物の多様さを実感することのできた三日間でした。今後も参加していきたいです。

五島剛太（名大）

微小管細胞骨格の分野に10年以上おりながら、このようなアクティブな会合が行われていることを知らず、今回初めて参加させて頂きま

した。質の高い基礎研究に満ちた発表もそうですが、前々演者が座長につく形式など、たいへん新鮮でした。また、学部生も含めた学生のトークが多かったことも印象的でした。私の学生時代に比べても、主要学会でヤングが話す機会は減っているように感じます。このようなスタイルが今後も続いていくことを期待しております。

申 惠媛（京大）

今回、初めての生体運動合同班会議に参加さ

せていただきました。私は、この歴史の古い生体運動班会議を初めて知りまして、初日の会場に入ってからびっくりでした。遠方からの参加者を含め多くの参加者と短い時間の中でも活発な議論が行われることにとっても良い刺激を受けました。参加者の年齢の幅からもみんなが本当に Science が好きで議論していることが伝わってきました。分野の幅が広く、専門外の分野では難しい点多々ありましたが、脳の活性化を実感できるととても楽しい会議でした。

早いもので新学術領域「運動マシナリー」も今年の4月から最終年度になりますが、金の切れ目が縁の切れ目にならないように、積極的に共同研究を進め良い成果として報告できるように皆さん頑張らしましょう。

来年も神戸でお会いできます事を楽しみにしています。